

日光 刈込湖・戦場ヶ原スノーハイク山行報告書

(山域) 日光周辺

(コース) 2/20 湯元温泉(駐車場)～蓼ノ湖～小峠～刈込湖～湯元温泉(駐車場)
2/21 湯滝入口(バス停)～湯滝～小田代～戦場ヶ原展望台～赤沼(駐車場)

(日時) 2月20日(土曜日)～2月21日(日曜日)

(天候) 2月20日:曇りのち吹雪 2月21日:晴れ・曇り(風強し)

(参加者) CL:内堀(記録)・吉瀬・時田

(山行タイム)

2/20 湯元温泉 10:00～蓼ノ湖 10:30～小峠 11:10～刈込湖 12:00～湯元温泉 13:40

2/21 湯滝入口 9:50～湯滝 10:10～戦場ヶ原展望台 12:10～赤沼 12:30

(山行報告)

2月20日(土曜日)

早朝自宅を5:00少し前に出発して、蘇我駅に向かい美人2名を乗せ、首都高・東北道に進め、宇都宮ICより日光道に進み清滝ICで降りて、いろは坂を登ると、中禅寺湖が出現。

そのまま進み、奥日光の湯元温泉にあるビジターセンター側の駐車場に車を止めた。

今の所温かく手袋をしなくとも平気である。雨を心配したが曇りである。登山準備を済ませ出発開始。湯元温泉の源泉場所奥に登山道があり、少し登ると金精峠から来る道路(120号線)に出て、跨ぐようにしてまた、登山道を下りながら進むと、蓼ノ湖が表れた。湖中央は水が見えていて完全に凍結していない。湖に乗るのは止めよう。美人二人は早々に軽アイゼンを装着して、軽快に上れる。私は何処まで行けるかと思い、ツボ足で頑張る。本日は温かく雪が解けて凍った状態になっており、場所を選びながら登り続けると、ようやく小峠に到着した。

2名のアベック発見、本日中々人と会わないな。これで4名である。

休憩後、刈込湖を目指して下降するものの、階段が露出していて、凍っている。怖い。

我慢を重ね下降するとそこは、刈込湖であった。此処までは樹林帯であったが。湖の周りは吹雪となり、長くいられない。記念撮影を済ませ。早々に樹林帯に入り、休憩に入る。スノシューツアーの方々が7名程度いた。本日、沢山の人を見たのは。私もこの休憩で軽アイゼンを装着する。休憩後は、一気に小峠まで登り、蓼ノ湖を過ぎ元の湯元源泉場所奥に到着した。未だ、吹雪いている。雨の予感はない。雨で無くて良かったと思った。

駐車場に戻り、靴も履き替えず車で、おおるり山荘に向かった。数分程度でした。チェックインを済ませ、部屋に入りようやく靴・アウター上下を脱いだ。

ここ、おおるり山荘は13:00～チェックイン可能で早くから宿泊出来る。食事付6,000円と超安価格ゆっくり温泉に入った後は、夕食まで時間があり部屋で宴会を始め、夕食時には少し酔った状態での夕食となった。夕食も1H飲み放題のためビール・ワインと進み夕食を済ませた。

部屋に戻りまた、宴会を始めるが、早朝出発の疲れから21:00前には早々、布団の中に入り、就寝してしまった。早朝起きたら3:00で、その後は中々眠れず、ウトウトして起きたのは6:30頃であった。再度、温泉に浸かりお腹を空かせ朝食バイキングに馳せ参じた。

バイキングはイケないね。貧乏性が出てしまい全部入れよう、容器を一杯にしようと思う。

2月21日(日曜日)

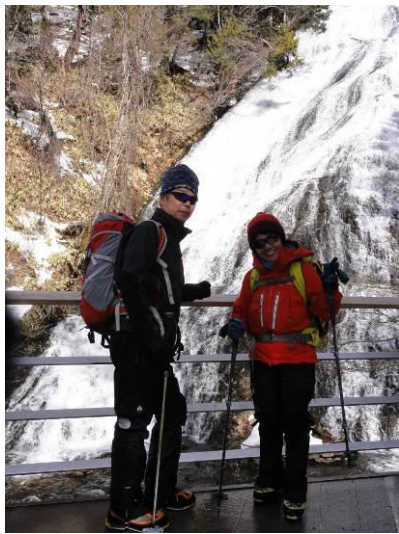
朝食後は部屋に戻り、出発の準備を進める。ここで、登山靴・スパッツを装着して、車に向かい、車で赤沼の駐車場に具合よく1台止める場所があり止められた。国道脇の道には沢山の車が路駐をしていた。何だか昨日とは人の入り方が全然違う。少し待って、赤沼のバス停より路線バスに乗り湯滝入口で降りた。ぐるーと周り湯滝駐車場に向かうが途中より、道路中央は雪が無く薄い氷状態であり、進むが途中、1歩出すと滑るので逆の足を1歩進めたが、双方滑りザックから落ちてしまった。その際、左手首が付いてしまい。その場は平気であったが、翌日、衝撃により肩・肘が痛く、手首が少し腫れてしまった。情けない。久々まともに転んでしまった。

駐車場の先は湯滝があり、勢い良く流れる滝とマイナスインを満喫した。

これより、小田代に向かうが、初めに階段を下りる場所があり、全て凍結状態であり、軽アイゼンを付けない私は、ゆっくり、降りて行った。女子二人は階段手前で軽アイゼンを装着して楽々気分而降りてきた。失敗したか？ 軽アイゼン付ければ良かったかと思ったが、その先は高低差の無い、歩きである。川のほとりを歩き小田代に到着した。大半の方はスノシューを履いていたが、雪道は緩んでおり、かなり深く入り、結局、木道を歩くため、スノシューより軽アイゼンの方が、本日は実践的であった。小田代橋・青木橋を抜けると一面広い、戦場ヶ原が目飛び込んでくる。昨日と比較にならない人がここ、戦場ヶ原にいる。やはり有名スポットだろうか？ 空は、晴れ・曇りと目まぐるしく変わり、雲が早く過ぎて行く。その分、風も強くかなりの轟音が鳴り響く。途中吹き曝しの場所では、体が持っていかれ、危うく木道から弾き出される勢いであった。大半は原生林に阻まれ、風は少なく、気持ちの良い歩きである。男体山が良く見える場所で写真を撮り、急いで赤沼（駐車場）に戻った。帰りに三本松茶屋に寄り昼食を食べた。この店のお酒は、瀬祭・飛露喜等有名どころの酒があり、観光客に飲ませている様であった。本日は車の運転があり我慢我慢であった。帰りは清滝の「やしおの湯」で汗を流し、東北道・首都高で帰葉した。



2月21日（戦場ヶ原）



以上